

燈會社常務取締役下出民義氏は、電燈の副業として電氣應用化學工業を開始せんとて熱心に唱道し、一昨年末總會の容るゝ所となり定款の變更をなしたるに付、爾來電氣技師寒川工學士を歐米に派遣して各方面の調査をなさしめたる結果、特種鋼アルミニウム杯の製造を開始せんとしたるも、其後輕銀は日本輕銀會社の設立を見るに至りたれば、同會社には唯電力を供給するに留め、電燈會社は主として炭素鋼特種合金鐵の製造をなすに決し、昨年末其機械の購入をなすと共に、八幡製鐵所技師たる内山繁氏を聘し、寒川技師と共に本年一月八日より試験に着手し、先づ硅素鐵に於て満足なる結果を得たれば、本月六日より更にタングステン^①の試験に着手する筈、近時タングステン合金は一噸一萬五千圓餘に暴騰し、原料も岐阜方面に豊富なれば極めて有望なりと云ふ、同社購入の熔爐は一噸半を製造し得らるゝものにして、晝夜兼行せは一日に五六噸の製造をなし得るより、戰時中の供給は勿論戰後に於ては從來の輸入を防遏し得る見込なりと。

●米國の製銑高

米國は從來世界に於ける製鐵國の羈者にして、世界の總産額壹億二千萬噸中約三千萬噸を産出したるしか、先年製鐵ツラストの弊漸次顯著となりて産額減少し、業務の不振其極に達し利益は其生産費を償ふに足らざりしか、歐洲大戰勃發するや鐵類の需用一時に起り、從來の高爐丈けにては到底交戰各國の需用に應ずること能

はざるに至りたるを以て、鎔鑛爐の増設又は新設さるゝもの多く、昨年中に於ける其數は實に九十三基に達し、總産額三千萬噸に上りたるか本年一月以降の狀況は、昨年に比し猶一層の好況にして今日の割合を以て進まんか、本年中に於ける總産額は約四千萬噸に上る可き形勢なり。

●米國製銑高と本邦との比較（一ケ年と一晝夜）

去る五月九日歸朝したる川村三菱製鐵所技師は米國製鐵事業の現況に就て語りて曰く、米國各所の製鐵工場は目下世界各國からの大注文で、晝夜兼行の大多忙であるか、其仕事の掛取る事は驚く計りて、例へば我國ならば製造に正に一ケ年は掛る鐵を、僅か一晝夜の中に拵へて了ふなと只々感嘆の外はない、大冶製鐵所から注文した一日鐵か四百噸宛出來る筈の鎔鑛爐二基は、目下米國で作へて居るか是か出來たら我國でも、此一大冶製鐵所からても一日八百噸宛の銑鐵か出來る事になる云々。

●神戸製鋼染料製出

神戸鈴木商店の經營に係る神戸製鋼所にては楠瀬工學士主任となりてナフタリンより染料の製出を研究中なりし所、精製品を得るに至りしより今回赤色黄色褐色の三種を發賣する事となり其數量は多からざるも順次擴張する計畫なりと。

●電氣製鐵業勃興

從來我國に於ては、電氣動力に依る製鐵事業に成功せる者少かりしも、歐洲戰亂以來鐵價暴騰して、鋼鐵の如き中には平時の七八倍、即ち一噸一萬